

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：47124

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13471

研究課題名（和文）派生・複合情報を付与した歴史コーパスによる語形成の歴史的研究

研究課題名（英文）A Historical study of word formation using a corpus with derivational and compound information

研究代表者

村山 実和子 (MURAYAMA, Miwako)

福岡女子短期大学・その他部局等・講師

研究者番号：50783586

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中世～近世における日本語の語形成の傾向や特徴について明らかにすることを目的とするものである。そのために、国立国語研究所が公開している『日本語歴史コーパス』に出現する語の情報を抽出し、派生・複合に関する情報の付与を試みた。情報付与の効果的な手法を提案するとともに、そのデータにもとづき、特に中世～近世における形容詞の造語の傾向について研究成果を報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

語構成研究において、語以下の要素や語構造に関する情報を網羅的に収集・分析することは困難を伴うが、本研究では、コーパスを利用することで対象資料内の全ての要素に目配りできること、時代ごとの実態を客観的なデータとして提示可能であることを示した。

また、『日本語歴史コーパス』という言語資源については、各研究者が必要に応じて機能を拡充させていくことが想定されているが、本研究はその展開例として重要な位置づけとなると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify the trends and characteristics of word formation in Japanese during the medieval and early modern periods.

In this study, I extracted words appearing in "The Corpus of Historical Japanese" constructed by the National Institute for Japanese Language and Linguistics and attempted to annotate new information on word structure. I proposed an effective method of adding information, and reported based on the database on the trends in adjective word formation from the Middle Ages to the early modern period.

研究分野：日本語学

キーワード：語形成 語構成 歴史コーパス

1. 研究開始当初の背景

申請者は、接尾辞による用言の派生に着目し、日本語の語形成の史的変遷を明らかにすることを目指している。特に、中世から近世にかけて語形成の方法に変容があったと予測しているが、それを記述するには網羅的かつ精確な用例収集が必要となる。しかしながら、語以下の要素である接尾辞(勇まし、似つかわしい、長たらしい)のように、語の後について意味を付与したり、品詞性を決定づける要素)の場合、文献調査で語彙を特定せずに収集・分析するには困難が伴う。その問題を解決するために有効な手段が、「コーパス」を用いた言語研究である。コーパスを用いることで、対象資料内のすべての要素に目配りすることができ、時代ごとの実態や変化を客観的なデータとして提示することができる。

本研究開始時から現在まで、日本語史資料を対象に、形態論情報(品詞や読み、活用形といった情報)が付与されたコーパスは、国立国語研究所が公開している『日本語歴史コーパス』(以下、CHJ)のみである。ただし、このコーパスには語構造についての情報は付与されていない。また、テキストを単語に分割する際、現代語のコーパスに準拠した斉一な単位を採用しているため、現代語で固定化した形式であれば、その結合度や時代背景によらず一語として処理されている場合もある(例えば「いかがわしい」「あいくるしい」など)。

そこで、コーパスに出現する語を抽出し、語構造に関する情報を新たに付与することで、コーパスの特性を生かした新しい取り組みが行えると考え、本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究は、日本語史資料に出現する語に対し、その語構造に関する情報を独自に付与することにより、中世～近世における日本語の語形成の傾向や特徴について明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

コーパスに紐付いた解析用辞書「UniDic」の見出し語情報を利用し、CHJに出現する合成語(特に形容詞)に語構造情報(複合・派生の別)、構成要素の情報(語基・接辞)を独自にアノテーションする。そのデータにもとづき、語基と接尾辞との組み合わせのバリエーションや出現頻度について計量的に分析し、中世～近世における語形成のありようを記述する。

4. 研究成果

上記にもとづき、以下の研究成果を公表した。なお、当初は形容詞と動詞を対象として進めていたが、最終的に中世～近世以外のコーパスに出現する形容詞に調査を広げることとし、動詞は考察から措いた。また、研究期間中に、データベース自体を公開するには至らなかった。現在も構築が進められているCHJの更新情報を反映させ、引き続き基礎データとして活用する。

- (1) 本研究は、上記方法で述べたとおり、CHJの収録語を参照している。コーパス構築に従事する立場として、CHJに中世～近世語の資料が新たに加えられる際、その時代や資料性に即した情報の付与を検討し、実装に取り組んだ。それらの知見が自身の研究にも反映されている。
(Construction and Utilisation of the Corpus of Christian Materials(Kirishitan Shiryo)、形態論情報の多重化による洒落本コーパスの質的拡張、CHJ「江戸時代編I洒落本」の拡張と「江戸時代編II人情本」の公開)
- (2) 『日本語歴史コーパス』に出現する合成語に対し、その構成要素に関する情報を新たに追加するための手法を提案・試行した。コーパスに紐付いた解析用辞書「UniDic」の見出し語の情報を利用し、構成語情報を付与することの有用性と課題を示した。また、本手法によって、作業の一部が自動化されるという効果も得られた。
(『Unidic』を活用した語構造情報付与の試み—『日本語歴史コーパス』に出現する語を対象に一)
- (3) 中古に成立した形容詞化接尾辞「ハシ(ワシイ)」について、成立当初は動詞から形容詞を派生する接尾辞であったものが(例 似付く→につかはし)、中世を境に、既存の形容詞から新しい形容詞を派生する形式に転じた(例 いかがし→いかがはし)ことを示した。同じく二次的に派生した形容詞が、中世から近世にかけて多く見られることも併せて示し(例 近い→近しい、重い→重たい、暑い→暑くろしい、長い→長たらしい)、当該時期の形容詞の造語の傾向が、接尾辞「ハシ(ワシイ)」の変容に影響した可能性を指摘した。これは、本研究の調査データを一部利用し、また着想を得たものである。
(接尾辞「ハシ(ワシイ)」の変遷)
- (4) 中世以降に造語された接尾辞「ハシ(ワシイ)」による形容詞は、語幹が共通するシク活用形容詞中世以降に造語されたものは、例外的に、「いかがわしい」のみが現代語に継続している。中世～近世にかけて先んじて使用されていた「いかがしい」が使用されなくなり、「い

かがわしい」のみが使用されるようになる要因として、意味・語形のよく似た「ウタガワシイ」が与えた影響を指摘した。
(「いかがわしい」の成立と定着)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 村山 実和子	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 接尾辞「ハシ(ワシイ)」の変遷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 pp.18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20666/nihongonokenkyu.15.2_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山 実和子	4. 巻 128
2. 論文標題 「いかがわしい」の成立と定着	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語文研究	6. 最初と最後の頁 pp.32-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山実和子	4. 巻 3
2. 論文標題 『UniDic』を活用した語構造情報付与の試み 『日本語歴史コーパス』に出現する語を対象に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ発表論文集	6. 最初と最後の頁 267-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 村山 実和子
2. 発表標題 CHJ「江戸時代編 洒落本」の拡張と「江戸時代編 人情本」の公開
3. 学会等名 日本語学会2019年度春季大会 ワークショップ『日本語歴史コーパス』の今とこれから
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山実和子
2. 発表標題 「いかがわしい」の成立と定着
3. 学会等名 第274回 筑紫日本語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山実和子
2. 発表標題 『UniDic』を活用した語構造情報付与の試み 『日本語歴史コーパス』に出現する語を対象に
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山実和子, 小木曾智信, 中村壮範
2. 発表標題 形態論情報の多重化による洒落本コーパスの質的拡張
3. 学会等名 第114回 人文科学とコンピュータ研究会発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsuko KAWAGUCHI, Yuki WATANABE, Miwako MURAYAMA
2. 発表標題 Construction and Utilisation of the Corpus of Christian Materials (Kirishitan Shiryo)
3. 学会等名 EJS2017 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究で得られたデータ、およびそれにもとづく研究成果は、2021年3月に九州大学大学院に提出した博士論文にも反映した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------